

みんなdeスポーツ! わが町の取り組み

⑮

群馬県

群馬県特別支援学校体育連盟は県内の公立知的障害特別支援学校20校で組織し、毎年「群馬県特別支援学校体育大会」（通称、特体連）を開催している。

特体連は、小中学部大会（4地区4会場）と高等部大会（全県1会場）がある。小中学部大会では、自校の運動会などで踊ったダンスを発表し合ったり、「世界に一つだけの花」の曲に合わせて参加者全員が同じ振り付けで一体感を共有したりするなど、競技に加えて各地区で大会内容を工夫している。主に秋季開催であるが、プール交流を主体に夏季とする大会もある。

高等部大会では、陸上競技、バ



特体連高等部大会の表彰式の様子

裾野拡大へ連絡会議や競技団体が発足

スケルトンボール、7人制サッカー、スマイルボウリング、ウォークラリーなど、生徒の障害特性に合わせた競技を行う。バスケットやサッカーでは、選手同士が激しくぶつかり合い、1点を争う白熱戦が繰り広げられている。圧巻は、大会最後の学校対抗リレー。各校生徒と保護者を含めた観戦者の応援合戦にも見応えがある。

本県障害者スポーツ協会は本年度、2020年東京パラリンピックや国体を視野に、市町村や特別支援学校関係者が集まる「市町村障害者スポーツ連絡会議」や「障害者スポーツ拡大会議」を新設した。また「県障がい者陸上競技協会」も立ち上げられ、さまざまな課題に向き合いつつ、障害者スポーツ振興と競技人口の裾野拡大を目指す取り組みが始まっている。特体連でスポーツの楽しさや競技の厳しさを知った児童・生徒や卒業生たちから、高みを目指して、やがて全国や世界を舞台に活躍するアスリートが多数生まれることを期待している。

（奈良雄策・群馬県立高崎特別支援学校教諭、県特体連事務局長）